# SVA北朝鮮食糧支援事業

# 報告書

## お礼の言葉

この度の北朝鮮に対する緊急食糧支援におきましては、皆様から多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。昨年7月にお呼びかけをさせていただいた当初は様々なご批判も承りましたが、8月、9月、そして10月と三回に渡って現地に約1000トンの食糧を運び、直接被災地の人々に届くよう配慮して参りました。国情の違いなどから被災者との交流は極限られた範囲でしかありませんでしたが、収穫の時期などもあり、現地に訪れる度にかなりの改善が見られ、昨年末の時点でやや持ち直しているような印象を持ちました。これも一重に皆様の暖かいご協力があってのことと存じます。

もちろん、北朝鮮の食糧事情の深刻さは今日も変わりありません。昨年からの食糧備蓄が底をつき、複雑な政治問題もあって国際的な支援がなかなか得られる状況にないからです。こうした中、ＳＶＡは昨年度に寄せられた北朝鮮支援募金の残金約600万円を使わせていただき、今春の食糧購入に当てさせていただければと考えております。

皆様のご協力に改めて深く感謝申し上げ、ご報告にかえさせていただきます。

ＳＶＡ会長　松永　然道

カット：共存樹の会会員　吉田節子

**主催**：曹洞宗国際ボランティア会(ＳＶＡ)　**共催**：北朝鮮食糧支援ＳＶＡ北海道連絡所／北朝鮮食糧支援青森県連絡所／飢えに苦しむ北朝鮮の母と子どもを救う会／北朝鮮に米を贈る山形寺院の会／足利ＹＭＣＡ／とちぎボランティア情報ネットワーク／微笑みのネットワーク／北朝鮮食糧支援埼玉県連絡所／「できることからボランティア」ネットワーク／ＳＶＡ北朝鮮救援事務所／安楽友の会／北朝鮮食糧支援新潟県連絡所／ヌンソンサン浜松(旧ＳＶＡ浜松)／ＳＶＡ愛知県朝鮮民主主義人民共和国救援物資を贈る会／ＳＶＡ京都寺院の会／ボランティアれんげ／金光教平和活動センター／シャンティ山口／蓮華院誕生寺国際協力協会／北朝鮮食糧支援大分県連絡所／岡まさはる記念長崎平和資料館　**後援**：国連世界食糧計画(ＷＦＰ)／曹洞宗宗務庁

SVA北朝鮮食糧支援事業

# 報告書

## 北朝鮮の食糧危機とSVAの取り組み

人口2千3百万人の北朝鮮。日本から、直行便さえあれば2時間あれば着くほど、近いが、国交がなく、国の様子が伝わってこないことから、ベールに包まれた近くて遠い国というイメージが非常に強い国である。

その北朝鮮が、94年の大規模な雹の被害、95、96年には、2年続きの大水害により、食糧危機に陥った。現地に駐在事務所をもつ国連世界食糧計画(WFP)によれば、昨年度の夏の時点において120万トンの食糧が不足し、人口の30%が深刻な栄養失調状態であることが報道され、餓死者相当数達するとの話も聞かれたが、その実態は、つかめないままであった。

そんな中で、SVAに対して、阪神・淡路大震災の救援で共に活動した神戸のNGOグループからの支援要請が相次いだ。当初、北朝鮮と日本との間に存在する日本人妻や拉致問題をはじめとする様々な政治的な問題の真偽が取りざたされ、たとえ食糧危機があったにせよ、本当に困った人に食糧が届くのかと言った疑問もあり、取り組みに躊躇していた。

しかし、深刻な食糧危機が北朝鮮当局のみならず、国連機関や日赤などからも伝わってきており、政治的問題があるにせよ、NGOとして、人道的な立場から取り組むべきであること、WFPを通して、モニタリングが可能であることから、97年6月から、北朝鮮緊急食糧支援に取り組むに至った。

(詳細は、以下の「取り組みの経緯」参照)

## 取り組みの経緯

**1997年**

**4月** 神戸のNGOグループやWFPからの支援要請が相次ぎ、情報収集・検討開始。

**5月** 理事会で、調査団派遣を決定。結果を見て最終判断することが決定。

**6月** 総会にて北朝鮮食糧支援活動の取り組みについて討議なされ、調査団派遣を承認される。その結果報告をうけ、取り組みの是非については、理事会で決定することが決議された。

**6月16~24日** 北朝鮮食糧支援調査団(3名)を派遣。

**6月27日** SVA理事会にて調査報告がなされ、活発な討議の末、理事の多数決をもって支援活動が決定。

**7月** 物資集積所の決定、物資収集、マスコミ対策、協力お願いのDM発送など運動づくりを。

**8月8日** 新潟港にて、万景峰92号への物資積み込みをチェック。

**8月9日** 第1回目の物資輸送。万景峰92号で新潟港から元山港へ。(10日到着)

**8月12~19日** 第1回モニタリング派遣(5名)。平壌市、江原道元山市、黄海北道平山郡を視察

**9月24日** 曹洞宗大本山總持寺内仏殿前特設ステージにおいて、喜納昌吉&チャンプルーズと朴保バンドの協力によるチャリティーコンサートを開催。約1000人が参加し、大成功を収める。

**10月6日** 第2回目の物資輸送。万景峰92号で新潟から元山港へ。(7日到着)

**10月20~25日** 第2回モニタリング派遣(6名)。平壌市、江原道元山市、黄北海道平山郡を視察。

**10月28日** 第3回目の物資輸送。万景峰92号で新潟港から元山港へ。(29日到着)

**11月17~25日** 第3回モニタリング派遣(4名)。平壌市、江原道通川郡、黄海北道平山郡、平安南道粛川郡を視察

**12月** 北朝鮮支援NGOで合同報告会を開催(国際開発学会主催)

**1998年**

**1月** 北朝鮮支援NGO情報交換会

**2月** 北朝鮮支援NGO連絡会設立

SVA北朝鮮食糧支援事業

# 報告書

## 物資配布とモニタリング

97年6―11月にかけて、調査団を含めて4回ほど、北朝鮮へモニタリングを派遣した。物資を運ぶ際、必ずモニタリングを派遣し、物資がどのルートからどこに配布されるのか、配布される地区、対象者からのヒアリングに心がけた。物資配布先の決定については、ＷＦＰや北朝鮮の招聘先である朝日友好親善協会の情報を元に行った。

一方、平山(ピョンサン)郡には、毎回モニタリングを行った。これは、定点観測を通じて、一般的な街の様子を把握し、より実態にあった救援活動を行うためである。

## モニタリング経路と物資配布先一覧

＊ＷＦＰ経由の物資については後日報告がくる予定。
ここでは、中国米と日本からの物資のみ。

### 1.中国米の内訳

| 地区名 | 数量 | 第１回 | 第２回 | 第３回 |
|---|---|---|---|---|
| 黄海北道平山(ピョンサン)郡 | 320トン | 60トン | 140トン | 120トン |
| 咸鏡南道咸興(ハンフン)市 | 190トン | | 140トン | 50トン |
| 江原道通川(トンチョン)郡 | 70トン | | | 70トン |
| 平壌(ピョンヤン)市 | 20トン | | 20トン | |

### 2.日本からの物資の内訳

| 地区名 | 数量 | 第１回 | 第２回 | 第３回 |
|---|---|---|---|---|
| 黄海北道平山(ピョンサン)郡 | 52.6891トン | 17.6715トン | | 35.0176トン |
| 江原道元山(ウォンサン)市 | 25.2162トン | 1.68トン | 23.5362トン | |

## 活動の評価・検証

**1.**
活動を実施する際、政治問題などで様々な難問はあったものの、国家や民族、政治の枠を越え、NGOとしての姿勢を明確に示すことができた。また、とりわけ国交がない国への援助の難しさを学び、また、そうした場面でのNGOの役割も示すことができた。

**2.**
日本政府が救援活動を行えない中、先陣を切って取り組んだことは国内の世論喚起を行う上で効果的であった。

**3.**
救援物資の量は国連機関等に比べて少量であったが、現地の被災者に直接届けることで効果があった。

**4.**
問題点としては、現地行政機関の縦割りからか、特にWFPを通じた食糧のモニタリングに同行できず、調整に難航した。また、北朝鮮国内の行政システム上、なかなか自由な行動がとれず、被災者たちと思うような交流の場が持ちにくかった。

# SVA食糧支援の取り組み

**7月から物資を買い付けるための義援金を集めるとともに、以下の方法で、食糧支援を行った。**

①日本国内に物資集積地を20ヶ所設け、救済物資を集める。新潟港に集積し、海上輸送し、北朝鮮の元山（ウォンサン）港へ運ぶ。
②WFPを通じて食糧の買い付けとモニタリングを委託する方法。
③中国米を買い付け、北朝鮮まで陸上輸送し直接、モニタリングする。

# SVA食糧支援実績一覧

**■食糧支援総合計 約1,011トン**（米に換算して）

*WFPへ資金提供して物資の買い付けを行ったが、時期により購入した救援物資の種類が違う。よって、すべて、米に換算した場合の支援物資量を計算。（中国米1kg＝36円として計算）

| | WFP | 中国米 | 日本からの物資 |
|---|---|---|---|
| 調査団 | トウモロコシ 48トン（1万ドル） | | |
| 第1回 | 食用油 29トン（3万ドル） | 60トン | 19.3515トン |
| 第2回 | 豆 85トン（3万ドル） | 300トン | 23.5362トン |
| 第3回 | 豆 85トン（3万ドル） | 240トン | 35.0176トン |
| 合計 | （10万ドル） | 600トン | 77.9053トン |

2007年3月31日現在

# 日本での集積地

①北海道／北朝鮮食糧支援SVA北海道連絡所
②青森　北朝鮮食糧支援青森県津軽所
③宮城／飢えに苦しむ北朝鮮の母と子どもを救う会
④山形　北朝鮮に米を贈る山形与党の会
⑤栃木　足利YMCA
⑥〃　／とちぎボランティア情報ネットワーク
⑦群馬　微笑みのネットワーク
⑧埼玉／北朝鮮食糧支援埼玉県連絡所
⑨千葉　「できることからボランティア」ネットワーク
⑩神奈川／SVA北朝鮮救援事務所
⑪長野／安楽友の会
⑫新潟　北朝鮮食糧支援新潟県連絡所
⑬静岡／ヌンソンサン浜松（旧SVA浜松）
⑭愛知　SVA愛知県朝鮮民主主義人民共和国救援物資を贈る会
⑮京都／SVA京都寺院の会
⑯奈良／ボランティアれんげ
⑰富山　金光教平和活動センター
⑱山口／シャンティ山口
⑲熊本　蓮華院誕生寺国際協力協会
⑳大分　北朝鮮食糧支援大分県連絡所



●新潟港搬入の様子

# 日本からの物資の流れ

# SVA調査団及び各回のモニタリング結果報告

## 調査団

**モニタリング期間**／1997年6月16日(月)～24日(火)

**訪問先**／開城(ケソン)市長豊(チャンプン)郡月谷(ウォルゴッ)里、黄海北道(ファンヘブクド)平山(ピョンサン)郡及び銀波(ウンパ)郡、平壌(ピョンヤン)市

**訪問メンバー**／秦辰也(SVA事務局長)、市川斉(SVAスタッフ)、浅田有彦(SVA愛知県朝鮮民主主義人民共和国救援物資を贈る会)

●黄海北道の平山郡にある託児所の子どもたち。

●訪問先、WFP、政府の水害対策委員会のどの情報でも共通しているのは、食糧備蓄が底をつき、配布できるのは、海外からの救援米が届いた時だけであり、予想以上に食糧危機が深刻であった。例えば、平山郡の人口11万2千人のうち2万人が17歳以下の子どもであるが30%が栄養失調であり、4～6月の間に20人が栄養失調が原因で死亡したという。同郡内の保育園でも30人中8人が栄養失調で寝たきりであった。この訪問でSVA食糧支援活動に対するWFP平壌事務所のモニタリングの協力を取り付け、緊急救援活動に取り組むことが決定した。

## 第1回モニタリング

**モニタリング期間**／1997年8月12日(火)～19日(火)

**訪問先**／江原道(カンウォンドウ)元山(ウォンサン)市、黄海北道(ファンヘブクド)平山(ピョンサン)郡、平壌(ピョンヤン)市

**訪問メンバー**／秦辰也(SVA事務局長)、笛岡賢司(ヌンソンサン浜松)、久家誠二(蓮華院誕生寺国際協力協会)、城内まゆみ(SVA)、堀雅博(聖隷浜松病院医師)

黄海北道の平山郡の子ども。栄養失調の為合併症をおこしているとのこと。

●物資を新潟港から運び入れて、それを追う形で、北朝鮮入りした。当初、その物資をモニタリング団と共に、配布できるよう試みたが、想像以上に、物資を運ぶトラック調達、その燃料であるガソリンが入手困難であることが実際モニタリングして分かった。モニタリング仕切れない物資に関しては、WFPがすべて、モニタリングすることを約束した。一方、7月から雨が殆ど降らず、干ばつによる影響でとうもろこしの収穫量が50～60%ぐらいであることが黄海北道への訪問から判明した。

## 第2回モニタリング

**モニタリング期間**／1997年10月20日(月)～25日(土)

**訪問先**／江原道(カンウォンドウ)元山(ウォンサン)市、黄海北道(ファンヘブクド)平山(ピョンサン)郡、平壌(ピョンヤン)市

**訪問メンバー**／松永然道(SVA会長)、秦辰也(SVA事務局長)、大谷良心(ボランティアれんげ)、渡津法晃(SVA愛知県朝鮮民主主義人民共和国救援物資を贈る会)、坂茂(建築家)

水害対策委員から受領書を受け取る松永会長。

●米の収穫を終えたばかりでようやく食糧危機については、全体的には一段落ついたところであった。例えば、定点観測をしている平山郡では、6月に子どもの30%が栄養失調であったのが、WFPやユニセフの援助もあり、5～10%に減少していた。配給も再開でき、元山市では、1日平均200gまでに回復していた。WFP平壌事務所の予想では、何とか来年の2～3月まで食糧が持ちこたえるとのことであったが、7歳以上の子どもに対しても食糧援助の枠を拡大することをWFPとして検討しているとのことであった。

## 第3回モニタリング

**モニタリング期間**／1997年11月17日(月)～25日(火)

**訪問先**／江原道(カンウォンドウ)通川(トンチョン)郡、黄海北道(ファンヘブクド)平山(ピョンサン)郡、平安南道(ピョンアンナンド)肅川(スクチョン)郡、平壌(ピョンヤン)市

**訪問メンバー**／浅田有彦(SVA愛知県朝鮮民主主義人民共和国救援物資を贈る会)、笛岡賢司、塚本和夫(共に、ヌンソンサン浜松)、市川斉(SVAスタッフ)

●今回、初めて、8月21日の高潮の被災地である肅川郡を訪問。元々の穀倉地帯であったが、高潮により、海岸線から6kmまで海水に浸かり、収穫はゼロで家畜も3千頭死に、73年ぶりの被害だという。通川郡では、穀物の配給が定期的にあるものの、地区によって差はあるが1日平均150～400gとのことであった。

元山港から平山郡商業管理所保管庫に運ばれた乾麺・缶詰。

一方、水害対策委員会の話では、今年は高潮と干ばつによる被害がひどく、94年のひょうの被害、95、96年の水害に加えて、4年連続自然災害にあっており、収穫予想は268万トンとのことであった。

# 国連感謝状

北朝鮮緊急食糧援助
SVA様によるご協力

拝啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年は私共、国際連合世界食糧計画（WFP）の北朝鮮食糧援助に対しまして、並々ならぬご協力を頂きまして誠に有り難うございました。

昨年1997年一年間にSVA様より合計10万ドルの現金によるご援助を頂きました。
これにより、WFPはとうもろこし、食用油および豆類を調達致しまして北朝鮮において飢餓に苦しむ人々のための緊急食糧援助に使わせて頂きました。
改めてここに深く感謝の意を表します。

国際連合世界食糧計画（WFP）
日本事務所
所長　　佐藤　和明

# チャリティ・コンサート

## コンサート報告

9月24日曹洞宗大本山總持寺にて「アリランの国の人々に笑みを〜隣人の飢餓を救おう〜」チャリティコンサートをおこなった。このコンサートは、「全ての人の心に花を」の大ヒットで広いファン層から支持されている喜納昌吉さんと韓国系在日二世で北朝鮮の問題を自らの問題と捉えている朴保バンド、地元のグループで神戸の避難所などにも廻れてご活躍なさった夏鬼太鼓によって行なわれた。当日会場には1000人以上の方が来場された。

記者会見の中でも喜納昌吉さんは「人間の生というものは政治的な次元だけで解決しても良いものかという疑問がある。みんな、人として当然のことをやるだけ・・・風をおこしましょう。」と語った通り仏殿前のステージも伴い熱気のあるコンサートとなった。

そして、多くの方々のご協力によりお米471kg、コンサートの収益金として約159万円募ることが出来た。これらの収益金は、北朝鮮に贈るお米の購入費に充てられた。

# 北朝鮮支援会計収支

| 区　　分 | | 金額（万円） | 構成比 |
|---|---|---|---|
| | 緊急救援募金 | 5,608 | |
| | 總持寺にてのチャリティ・コンサート収支差益金 | 159 | |
| （1）収入（緊急救援募金）　合計（a） | | 5,767 | 100.0 |
| | ①食料支援（食料購入）費 | 3,364 | 58.3 |
| | ②広報活動費（DM費用等） | 366 | 6.3 |
| | ③現地調査・モニタリング費等 | 316 | 5.5 |
| | ④諸経費（国内輸送費、その他） | 159 | 2.8 |
| | 緊急救援活動直接費　小計 | 4,205 | 72.9 |
| | 事務管理費　（a）×15% | 865 | 15.0 |
| （2）支出（費用）　合計 | | 5,070 | 87.9 |
| 収支（98年度への繰越）　（1）−（2） | | 697 | 12.1 |

（1998年3月31日まで）

●この報告書に対しての問い合わせ
〒160-0015　東京都新宿区大京町31　慈母会館SVA3F
TEL03-5360-1233　FAX03-5360-1220（担当／市川、喜多村）